

農業



令和3年1月号
会誌 No. 1673

目次

巻頭言

年頭に当たって……………吉田 岳志 3

論壇

日本の果樹品種開発・普及力……………山田 昌彦 4
—ブドウを例に—

農事功績者座談会

観光農業と6次産業化による果樹の産地振興……………中平 孝雄 6
—（株）なかひら農場の取り組み—

表彰農家訪問

消費者起点のモノづくりによる葉ネギ生産・加工・流通の…望月 龍也 21
企業の経営展開
—滋賀県草津市に（株）アグリケーション中島富治一氏を訪ねて—

寄稿

農家の乙女が交配手として支えた群馬県のトマト採種業……………渡邊 悟 28
—榛名神社のトマト石碑をめぐって—

農業・農村の現場から

丹波篠山市における黒大豆「丹波黒」の産地づくり……………森本 秀樹 34
—種を守る協同の精神—

世界の農業は今

菓子用小麦粉の原料—米国産コムギ「ウェスタン・ホワイト」の生産現場から……………関根 久子 40

私の経営と志

地域のこれからを見据えて……………佐藤 陽介 47
—新たなことに挑戦—

統計情報

令和2年産水陸稲の収穫量…………… 49

農政情報

…………… 50
大日本農会だより…………… 51
編集部から…………… 46

表紙写真説明

出荷解禁に合わせた「キンカン」の収穫体験（宮崎県美郷町）

宮崎県の北部にある美郷町では2月中旬に特産の「キンカン」の収穫最盛期を迎えます。JAの選果場には、ピーク時は一日に約4.5tのキンカンが持ち込まれ、令和元年度では約200t、約1億2千万円を売り上げる同町の主力品目の一つとなっています。

宮崎県のキンカンは、糖度が16度以上でサイズがL以上（28mm以上）のものを完熟キンカン「たまたま」、糖度が18度以上でサイズが2L以上（32mm以上）のものを「たまたまエクセレント」として出荷します。栄養機能食品として販売しており、栄養価が高く生で皮ごと食べることができる年齢を問わず人気の果物です。

例年、キンカンの出荷解禁日に合わせて、同町のキンカン生産者のハウスで収穫体験などが催されます。県内外から多くのファンが参加し、生産者と交流を深めています。

今年は1月14日が完熟キンカン「たまたま」の解禁日です。生産者が手塩にかけて育てた特産のキンカンは県内をはじめ、全国へ出荷されます。

（写真及び文：日向農業協同組合 企画管理部企画課 福島 夏生）